



卓話モデル2

職業奉仕とは

国際ロータリー 第2570地区
2025-26年度職業奉仕委員会

職業奉仕を理解するために

ロータリーの目的

二つの標語

決議事項23-24

職業宣言

四つのテスト

なぜ職業奉仕はわかりづらいのか

もともとは英語で
Vocational Service



日本語訳
職業奉仕

奉仕

：自分の利害に関係なく公共のために尽くすこと

Service

：他のもののためになる行為



二つの言葉の**概念の違い**がわかりづらさの原因

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として**奉仕の理念**を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

第1 (略)

第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値のあるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること

第3、第4 (略)

奉仕の理念とは：世のため人のために自分が持っている能力を全力で心をこめて捧げること、そうした利他の精神が自分の幸せにつながる、そして自分を活かす道である

(第2840地区パストガバナー本田博己「『職業奉仕』から『奉仕の理念』へ」)

二つの標語

【第一標語】

超我の奉仕 (Service Above Self)

原型はフランク・コリンズの”Service, Not Self”

【第二標語】

最もよく奉仕する者、最も多く報いられる
(One Profits Most Who Serves Best)

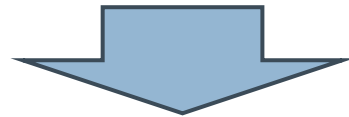
原型はアーサー・F・シェルドンの

“He Profits Most Who Serves His Fellows Best”

決議23－34（1923年）

第一条

ロータリーは、基本的には一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕―「超我の奉仕」―の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。



- ・ 相手に対するサービスを自己の利益や都合より優先させよう
- ・ 最善のサービスをすれば、結果として最大の利益（満足感・幸福感も含む）が得られる

職業宣言 1989年

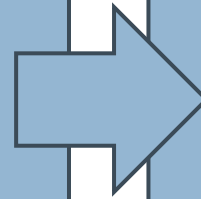
- 1) 職業はサービスの一つの機会なりと心に銘せよ。
- 2) 職業の倫理的規範、国の法律、地域社会の道徳基準に対し、名実共に忠実であれ。
- 3) 職業の品位を保ち、自ら選んだ職業において、最高度の倫理的基準を寄進すべく全力を尽くせ。
- 4) 雇主、従業員、同僚、同業者、顧客、公衆、その他事業または専門職務上関係を持つすべての人々に対し、ひとしく公正なるべし。
- 5) 社会に有用なすべての業務に対し、当然それに伴う名誉と敬意を表すべきことを知れ。
- 6) 自己の職業上の手腕を捧げて、青少年に機会を開き、他人からの、格別の要請にも応え、地域社会の生活の質を高めよ。

四つのテスト

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか



1. 嘘偽りがないかどうか
2. すべての取引先に対して公正かどうか
3. 信用を高め、取引先を増やすかどうか
4. すべての取引先に利益をもたらすかどうか

(2680地区田中毅PDG「ロータリーの源流」)

職業奉仕における役割

：ロータリアンが自身の職業や事業において高い倫理基準を保ち、奉仕の理念を実践するための具体的指針となる

職業奉仕とは（定義）

2016年規定審議会「制定案16-10 奉仕の第二部門を改正する件」

標準ロータリークラブ定款

第6条 五大奉仕部門

2. 奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。

職業奉仕とは（まとめ）

奉仕の理念

実践

クラブ
奉仕

職業
奉仕

社会
奉仕

国際
奉仕

青少年
奉仕

- ・ 職業における高潔性を保つ
- ・ 職業のスキルを奉仕活動に活かす

ご清聴ありがとうございました